

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3270700382		
法人名	社会福祉法人 浜田福祉会		
事業所名	グループホーム みかわ		
所在地	島根県浜田市内村町365番地4		
自己評価作成日	令和3年11月30日	評価結果市町村受理日	令和4年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [2/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=32](http://2/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和3年12月16日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホームみかわでは「みかわかふえ」「一泊二日旅行」「外食」等、外出や地域の方との交流がアピールポイントとして中心であったが昨年からコロナ禍により、全て自粛となってしまった。利用者も外出の楽しみや身体を動かす機会が減り心身面の低下が見られるようになった。令和3年より管理者の変更に伴いホーム内の畑に力を入れる事ができるようになり畑の作物の成長や収穫、畑で採れた野菜を使った調理、また皆様と一緒に頂く楽しみが増え生活に少しずつハリが出たように思う。11月は皆様とさつま芋掘を行い、つるを引っ張ると芋が次々出てきて賑やかな時間となった。芋のツルも食卓にのぼりなつかしさに大変喜ばれていた。コロナ禍ではあるが感染症対策を行った上で法人内の基準に従いながら少しずつドライブ中心に外出も出来るようになった。4月には花見、11月は紅葉見物、ご自宅周辺のドライブも出来た。またホーム内の行事としてバーベキュー、夕涼み会と称した食事会と花火大会、さんまの七輪焼きなどホーム内でも季節の行事を楽しんで頂くことが出来た。みかわかふえは毎月ホーム内で継続しており、利用者と一緒に手作りおやつを作り頂いている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

毎年、利用者、家族に対して「満足度調査」を行って意見の引き出しを行い、職員には「事業所自己評価」を行い、課題を検討し運営やサービスの改善に繋げている。職員の研修の機会も多く、認知症勉強会を毎月行い日々のケアを振り返り、利用者の立場に立って身体拘束をしないケアに通じ組んでいる。誕生会は利用者だけでなく職員の誕生日も一緒に祝ったり、畑作りを楽しむ等、喜びや季節を感じながら暮らせるように工夫した取り組みをしている。管理者は利用者、家族、職員が一体となったグループホームを目指し、諸々の活動や家族との関係作り等、コロナ後の活動に思いを膨らませている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の見える所に掲示し常にグループホームの理念を意識しながら介護にあたる様に心掛けている。共通理解を深めるために、ホーム内の会議の際には皆で理念を唱和している。	日々、時あるごとに理念に触れて話し合い、常に意識して実践につなげることに努めている。毎年行っている「サービス事業所自己評価」でも理念・基本方針の周知について評価を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染防止の為、利用者との同行外出は自粛しているが日常の買い物は地域の店舗で継続して購入している。また配達やテイクアウト等も利用し地域とのつながりを持っている。	コロナ禍にあり外出や行事等を通しての交流はできないが、地域の人の運営推進会議への参加や法人のたよりの地域配布等を通し情報を発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	継続していた「みかわかふえ」は感染症防止の為、地域の方の参加は自粛中。ただホーム内の行事として毎月開催。今後再会した際には地域の方との交流を図られるよう準備をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では日々の生活状況や実施した取り組みの報告、身体拘束適正化の為の対策検討委員会での検討や話し合いにより頂いた意見をサービスの向上に活かしている。	コロナの感染状況を見ながら参加者を決めて開催している。利用者の状況や活動等を詳細に報告し、委員からの情報や助言をサービスに反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に毎回出席して頂き生活状況や利用者の様子、状態を伝え変化等あれば相談や意見等頂いている。又生活保護の利用者の生活状況の聞き取りなどの要請に対応している。	運営推進会議への参加やたよりで事業所の状況を伝え、相談をしたり助言を受け協力して取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の動画研修等で身体拘束について理解を深めている。また運営推進会議で身体拘束適正化のための対策検討委員会を開催し所内での事例についての検討や意見を頂き所内会議にて共有を図っている。	毎月認知症勉強会を行い利用者の立場に立って対応することを確認し合っている。リスクマネジメントについて事例に沿って話し合い、ドラッグロックについても情報を共有し意識的に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の動画研修の受講等で虐待防止や不適切な介護について理解を深めている。また毎月行うホーム内会議にて不適切な言動や対応について職員間で振り返りを行い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の動画研修にて障がい者や認知症高齢者の権利擁護について理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に利用者、ご家族へ入居の意向確認を行い同意を得ている。ご家族の方へ重要事項説明、同意書、利用契約書、ケアプラン等の説明を行い疑問等あれば分かりやすく説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年満足度調査を行い利用者、ご家族の意見を運営に反映させている。またケアプラン作成、変更時は利用者、家族の意向、要望を元に作成している。調査結果は運営推進会議でも報告し意見をもらっている。	毎年「サービス」「対応」「活動」「入浴」等、10項目を設定して満足度調査を行い意見の引き出しに努めている。利用者からも時間をかけて聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングや毎月行う業務改善会議にて職員からの意見や提案を業務に反映させている。また事業所自己評価を実施し運営等に反映させている。	管理者は、何でも話をする、何でも話を聞く姿勢で積極的に声を掛け意見を聞いている。ミーティングや業務改善会議等で現状や課題を話し合い、出された意見を運営に反映させ改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務に対する自己申告や目標管理シート、育成面談等の実施により個々の努力や実績の評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍ではあったが今年度は介護職員キャリアパス研修に参加できた。また法人内でも新人職員研修や中堅職員フォローアップ研修等に参加した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前に比べると回数は少なかったが外部研修やビデオ研修に参加し知識や技術の習得を進めることが出来た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が困っている事、不安な事、要望等を時間をかけて耳を傾け話を傾聴したり、話を引き出す対話を心掛け、本人との信頼や安心感に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事には傾聴し、受容しながら出来る事出来ない事を話し合いながら関係づくりに努めている。こまめに電話連絡や自宅訪問を実施する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新しい環境の中でご本人やご家族が不安や必要な事を話せるよう、ゆっくり伺いながら見極めている。また既往歴やフェイスシートなども参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で料理や洗濯や掃除などを一緒に行う事で職員の助けにもなり、共に支えあっている関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回の「みかわたより」には個々の近況報告をおこなったりブログ等で近況をお伝えしている、受診対応や衣類など必要な物を持参していただいたりして関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為面会は控えているが電話等で馴染みの方との連絡が出来るよう配慮している。また業者散髪で馴染みの美容師に散髪してもらっている。ドライブに出かけた時は馴染みの場所をコースに入れている。	たよりには写真や個別メッセージを載せ、電話やブログをこまめに更新して利用者の様子を知らせている。孫とのガラス越しの面会や自宅近くにドライブする等できることを工夫し、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	アクティビティやみかわかふえでご利用者同士の交流支援を行っている。また同じ趣味や性格等座席に配慮し関わり合いを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接の特養に入所された際には面会に行ったり行事を通じて交流を図っている。また、退所後であっても何かあったら気軽に声をかけて頂くよう伝え相談にのっている。街で見かけた際には声をかけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から日常の会話の中でご利用者の希望や意向の把握に努めている。また、カンファレンスにて職員間でその方の意向等情報の共有をしている。	日頃の会話の中や、ゆっくり時間をかけて話を聞き思いや希望を聞いている。「私の姿と気持ちシート」を活用し、全職員が一人ひとりの利用者の思いを共有して利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から生活歴や生活習慣の聞き取りを行う。また以前利用していたサービスの情報やフェイスシートからも把握。本人との会話で昔話を聞いたり趣味や関心のある事を聞き出し暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェックや生活、言動、行動の様子を記録し現状の把握に努めている。記録や情報を職員間で共有し、安心安全な暮らしの支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを開催し、ご本人を交えて意見等をお聞きしながらケアプランを作成している。また参加できないご家族には事前に書面にて意向を確認させていただいている。	カンファレンス前には利用者、家族の意見や希望を聞き、利用者が生きがいや役割を持って楽しく生活できるように、得意なこと、希望していることを支援内容に挙げ介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に残すと共に、日々のミーティングの時間に気づきやその他の情報を共有し、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の要望を実現可能か職員間で話し合い、また多職種と協力し可能な限り取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者の皆様が生活されている、この美川地区は、豊かな自然に囲まれており、ご利用者、職員共に落ち着いて生活する事が出来る。中庭での畑作りは利用者の心を和ませている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者の毎日の状態を把握し、受診又は往診時に主治医に報告。特変が見られた場合にも報告し、指示を仰ぐ。	利用者、家族の希望のかかりつけ医を継続し家族の協力も得て受診や往診の支援をしている。利用者の情報は職員間で共有して医師に報告し、適切な医療が受けられるよう協力関係を築き支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームには看護師が常駐していないが週1回看護師が勤務。ご利用者の1週間の様子を伝え相談・対応を行こなう。またいつもと違った様子が見られれば直ちに主治医・保健師に連絡が取れる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された際には、担当医や医療連携室と連携を取り、ご本人の状態、変化を確認。状態改善後は医療関係者とのカンファレンスを開催し情報を共有し退院へ向けての支援を行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃のコミュニケーションやカンファレンスの中からどのような考えを持っておられるのかを把握し、ご家族様の意向とすり合わせホームとしてできる事を説明し方針を決めチームとして支援を行っている。	利用者、家族に事業所の方針を伝えている。重度化や終末期を迎え現在の生活が継続できなくなった場合は、家族や医師、関係者と話し合いを行い適切な環境で過ごせるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアル・緊急連絡先等を小まめに確認し職員に徹底し、万が一の事態に備えている。また年1回、職員1名が消防署にて開催の、まちかどステーションの研修に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	急な災害時に備え対応できるよう、総合訓練を含め年に4回、日中・夜間を想定し避難訓練を行っている。また緊急連絡網を作成し緊急時の連絡方法も訓練している。備蓄食や、パット類もストックしている。	法人としての総合訓練と昼・夜を想定した避難訓練を行い気づきは職員全員で共有している。現在法人としてガスで発電可能な設備を建設中で、状況によっては法人施設への避難も考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人一人の価値観を大切にした対応や言葉使いを心掛けている。また排泄面などさりげなく声掛けを行いプライバシーに配慮している。	介助する前にはわかりやすく説明し、居室に入る時は必ず了解を得る等、利用者を尊重しプライバシーに配慮した対応をしている。職員主導ではなく利用者のペースやできることを活かせる支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どのような場面でも利用者が理解しやすい言葉でご本人の希望を聞いたり選択しやすいような声掛けを行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩したい方には一緒にし、ゆっくりされたい方には無理強いをせず一人ひとりペースを大切にしている。自らお手伝いの声掛けをされる方もおられ、野菜切りや、お盆拭き、洗濯物干し等をお願いしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品やオシャレが好きなおられるのでその方の意思を尊重している。また化粧水や櫛をお持ちの方には声掛けをして身だしなみが整えられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を献立に取り入れながら、季節に合ったメニューの提供や、利用者と一緒に調理、おやつ作りを実施。食事が美味しいと好評。今後より嗜好が反映出来るようにメニューを検討していきたい。	基本的な献立はあるが、野菜を収穫したり差し入れがあった時等、その日の状況に合わせて献立を変更し利用者と一緒に作っている。おやつ作りやサンマ焼き等、楽しみの場をたくさん作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の水分、食事摂取量を把握し、1人1人の状態に応じた調理方法、形態や盛り付けを工夫し、個人が楽しく健康的に食事出来るように気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行っている。また義歯の方には義歯洗浄後、週2回義歯洗浄剤を使用して頂いている。また、週1回、歯科医に口腔内の診察、ケアをお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の状態、状況について職員間で情報交換し、個々に合った排泄物品を検討、使用している。介助の必要性、見守り、声掛け等自立支援のもと行っている。	利用者の排泄パターンや情報を共有し、声かけや見守り等支援方法を検討してトイレでの排泄を支援している。プライバシーにも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や乳酸菌飲料を朝食時に摂ってもらう事や野菜を多く使った献立の提供等便秘予防に努めている。また個々に合わせ無理のない運動(散歩、ラジオ体操)を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望(受診日前に入りたい)等や状況を見ながら1人一人入浴が楽しめるよう対応している。拒否のある方に対しては時間の変更や安心して入浴して頂けるよう声掛けをしている。	利用者の希望やその時々状況に柔軟に対応し、ゆっくりと職員との会話が楽しめるように支援している。入浴の好きな人が多いが、寒いからと嫌がる人もあり、ガスヒーターを設置し環境整備を行った。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活習慣や体調に合わせて休憩したい時には安心して休めるよう居室の環境整備や温度調節等行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬情報はいつでも確認出来るようにファイルに綴っている。薬の変更は職員間で周知出来るように介護日誌に詳しく記載し確認を行っている。変更があった時は副作用に注意し見守り様子観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や娯楽については利用者の要望等伺いながら楽しみとなるよう支援している。日常生活の中での作業(食器拭き、調理、洗濯物)等ご本人の出来る事がやりがいや役割りに繋がる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ対応として外出は控えてきた。感染状況により1時間以内で帰所できるコースでドライブ等楽しんで頂き気分転換を図った。	今年度は畑作りに力を入れて取り組み、季節を感じながら野菜の生長を眺め、収穫を楽しみ、戸外での活動を楽しんだ。コロナで外出制限はあったが、散策や紅葉ドライブ、花火等、できることを行ってきた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の預り金については不備がないよう管理している。コロナ禍により利用者と一緒に買い物に出る事は出来なかったが、利用者が希望される物は代わりに職員が購入し買い物の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望で電話できるよう環境を整えている。またご家族からの電話は職員が取次ぎしている。手紙や小包もご本人に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室、居間に温度・湿度計を設置し常に確認することで温度調節を実施。冬場は脱衣場、トイレも温度差がないようヒーターを設置。又コロナ対応により空気清浄機を設置した。居間や玄関は季節の花を生けたり写真、絵などを飾り心地よく過ごせるようにしている。	花や写真、絵等を飾り、ソファを設置して自由に過ごせるように環境作りをしている。浴室と脱衣所の温度差をなくすためにガスファンヒーターを設置したり、すべての蛇口から湯が出るようにする等、環境整備を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で気分に合わせくつろげる様に2ヶ所にソファを設置。気の合う利用者で談笑したり思い思いに過ごせるようにスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には馴染みのある家具など置き写真や好みの絵など飾り居心地よく過ごせるようにしている。またソファをベッド横に置き立ち上がり時の安全面に配慮している。	使い慣れたものを持参して貰うように話している。衣類や日用品、寝具類、家具や写真を置き、利用者に合わせてベッドやソファの配置を決めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者1人1人の「できる事」「出来ない事」に応じて自立支援している。身体状況に応じた居室内のレイアウト、トイレや廊下、浴室等に手すりを設置。足元も転倒防止の為、必用のない物は置かないよう配慮している。		